

令和6年度 第4回 宗像市 廃棄物減量等推進審議会 会議録

I 日 時 令和7年3月7日（金）14：00～16：00

II 場 所 宗像市役所 南館 201A 会議室

III 出席者（敬称略）

（ 委 員 ） 池田 ちえ子、梅田 泰睦、桑原 孝昭、武田 淑子、辻 勝也、
中村 友幸、松本 亨、柳瀬 龍二、山口 新吾

（ 事 務 局 ） 宗像市
山倉 昌俊、高倉 庸輔、松成 修平、大森 晴源、瀧口 信彦、木寺 司
株式会社エイト日本技術開発
鈴木 敏弘、西岡 一樹

IV 次 第

1 開 会

2 議 事

① パブリックコメントの結果について

【資料1】

② 一般廃棄物処理基本計画（本編、概要版）の最終案について

【資料2,3】

③ 災害廃棄物処理実行計画 手引きの骨子について

【資料4】

3 答申書(案)について

【資料5】

4 今後の予定について

5 環境部長あいさつ

6 閉 会

V 配布資料

- ・【次第】宗像市廃棄物減量等推進審議会 次第
- ・【資料1】一般廃棄物処理基本計画 パブリックコメントの結果
- ・【資料2】前回審議会の指摘事項
- ・【資料3】宗像市 一般廃棄物処理基本計画の修正箇所
- ・【資料4】宗像市 災害廃棄物処理実行計画 手引きの骨子案
- ・【資料5】「宗像市一般廃棄物処理基本計画」の改定について（答申書） 案

VI 会議録

1 開会

2 議事

①パブリックコメントの結果について

事務局より、「一般廃棄物処理基本計画 パブリックコメントの結果」の説明。

委員 パブリックコメントで寄せられた意見を見ると、宗像市民は一般廃棄物処理基本計画をよく見ていることが伝わってきた。しっかりと議論を行う必要性を再認識した。

委員 市民からの指摘の中に、「足るを知る暮らしへ舵を切る」ことへの啓発を行うこととあるが、その回答として循環経済への転換を挙げて同じ方向性を向いていると示している。循環経済の意味を考えると無理のある回答ではないか。

また、プラスチックを燃やすことはないと思われているような指摘があるが、実際は7割～8割のプラスチックは焼却されている。プラスチックは全てプラスチックとして再利用されているという誤解が免罪符となっているように感じられる。そのため、市民に再資源化とは何かを理解してもらえるように対策すべきではないか。

委員 人口1人当たり年間処理経費が類似自治体の平均値よりも高いのはなぜかという質問があるが、その回答を「快適な市民サービスを提供するため」とだけ示すのは抽象的ではないか。宗像市の清掃工場ではガス化溶融炉を導入しているため、一般的なストーカ炉よりも炉内温度が高く、誤って排出された不適正なごみにも対応することが可能である。他都市で清掃工場の火災により、ごみの処理が行えない事例もあるため、丁寧に費用をかける理由を説明すれば、市民にも理解してもらえるのではないかと考える。また、熊本地震の際には、1カ月の間災害廃棄物の受け入れを行っている実績もあるため、その点も含めて説明すればよいと考える。

委員 意見に対する回答の中に、「排出者が、ごみの減量・分別に努めれば費用負担が軽減される仕組みとなるよう検討します。」と示している項目があるが、この仕組みとは何か新しい制度のことを指しているのか。

事務局 多くのご意見をいただけているが、これはどのようなことなのかという内容についての質問も多く含まれているため、委員からの指摘も踏まえて、市民が理解できて関心を持てるような表現を目指していきたい。

循環経済の考え方と結び付けて回答した項目については、限られた資源を大事に使ってごみを発生させないようなライフスタイルが定着するように、実際の教育活動や啓発活動の中で、進めていくことを考えている。

ごみ処理手数料については、現時点ですぐに新しい仕組みを導入しようとしているわけではなく、ごみ袋の費用などでごみを多く排出すればするほど負担が大きくなるような体制をイメージしている。

委員 ごみ処理手数料について、既にごみの減量・分別に努めれば費用負担が軽減される仕組みなのかと考えていたが、今後さらに費用負担に違いを設けることを検討されているのか。

事務局 現時点の制度もある程度そのような考え方は反映されている。今後仕組みを変えていく場合にも、この考え方をベースにして仕組みを発展させていく。

また、ごみ処理手数料に関するご意見の意図としては、宗像清掃工場における自己搬入ごみについて指摘していると考えられるため、自己搬入の際にも分別を行っていただき資源を適切な場所に排出してもらえるような啓発も含めて回答を再検討する。

委員 人口1人当たり年間処理経費が高い理由が焼却炉の性能によるのであれば、市民も理解しやすいと考えるため、パブリックコメントの回答に盛り込んではどうか。

事務局 抽象的な表現については、具体的な回答になるように記載内容の再検討を行う。

②一般廃棄物処理基本計画（本編、概要版）の最終案について

事務局より、「前回審議会の指摘事項」及び「宗像市一般廃棄物処理基本計画の修正箇所」の説明。

委員 資料 2 の指摘事項 4 番について、「主要な目標値の達成のための補助的な指標」として示しているが、前回の審議会における指摘は、計画の進行管理の中でどのような指標をもとに評価するのかを具体的に示していただきたいという趣旨であった。定量目標だけでなく、定性的な目標でも問題ないとする。

市民、事業者及び行政のそれぞれの施策が、計画の目標達成に向けて有効に機能しているかの確認が重要である。進行管理におけるチェックが出来る指標を施策ごとに設けることを検討していただきたい。

また、宗像市の第三次総合計画が公開されていたが、そちらの計画では施策の進行管理が出来るような形で整理されていた。総合計画と同じようなイメージで進行管理が行われてはどうか。

委員 資料 2 の指摘事項 3 番について、図 2-22 は基本理念と基本方針が分かるようにはなっているが、各種計画との関連性を簡略化しすぎではないか。

委員 資料 2 の指摘事項 4 番について、前回は審議会の際に国の循環型社会形成推進基本計画には、メインの指標に対して補助指標が設けられている構成となっているため、それを参考にしてはどうかと指摘した。

取り組み指標として整理されている中で、施策の実行状況がアウトプットの指標であり、それ以外の項目がアウトカム（アウトカム）の指標であると理解している。施策の実行状況がどの程度達成されているのかを洗い出していくことが、委員の指摘からも重要な要素であると言える。

事務局 毎年、一般廃棄物処理実施計画を策定しており、前年度の取り組み状況を踏まえながら、新たな計画を策定しているため、その中で計画の進行管理に取り組んでいきたい。

これまでは、計画の進捗が分かるような指標がなかったが、今回は年度ごとに具体的な指標を設けているため、市のホームページや広報紙で公開することで、市民にもどの程度目標に近づいているのか見えるような方法を検討している。

また、資料 2 の指摘事項 3 番の図 2-22 の示し方は、市民に伝わりやすいように特に重要な項目を選択して、図にまとめている。前提として、基本理念と基本方針は全ての計画と関連しているものである。

委員 図 2-22 について、基本方針 3 からの線は一つの点から伸ばした方が分かりやすいのではないか。

事務局 図 2-22 の表現方法については検討し、検討結果を反映して計画を完成させる。

委員 本編の 76 ページの表 2-56 について、「リユース・リサイクルの場の制度の活用」との記載があるが、「リユース・リサイクルの場の活用」で良いのではないか。

また、発生抑制に関する記載をしている項目のタイトルが排出抑制となっている場合があるため、趣旨を踏まえて発生抑制に統一してはどうか。

事務局 本文の記載内容とタイトルが一致するような形で修正する。

委員 表 2-56 についても、本文と記載内容を合わせていただけるか。

事務局 記載内容を統一する。

委員 表 2-48 の指標の項目についても、表 2-47 と統一されてはどうか。

事務局 表 2-48 は関連計画で示された指標名を記載しているため、本計画の指標名とは一致しない。それぞれの表の表現が繋がるように記載方法を検討する。

委員 表 2-48 に注釈を入れるような形で検討していただければよいと考える。

委員 「各ごみ質調査の違いについて」の項目で、対象を「家庭系の行政収集される燃やすごみ（家庭系燃やすごみのみ）」と示しているが、表現を見直していただきたい。また、前後で意味が重複しているように感じられる。

③災害廃棄物処理実行計画 手引きの骨子について

事務局より、「宗像市 災害廃棄物処理実行計画 手引きの骨子案」の説明。

委員 災害廃棄物処理実行計画の手引きとは、素案の中で具体的な計画を作ることを考えているか。

事務局 第1回の審議会で紹介した本市の災害廃棄物処理計画のような災害廃棄物の処理におけるマスタープランのような位置づけの計画は既に策定している。災害発生後には、災害廃棄物処理実行計画を策定する必要があるため、その事前準備として、災害廃棄物処理計画と災害廃棄物処理実行計画の中間に位置付けた手引きの策定を進めている。

委員 地震が発生した際には、マンションは倒壊しにくいと、戸建ての多い地域に被害が多いことなどを整理した全体のシナリオを手引きの中で想定するのではないかと。現状の骨子案に示された内容は、災害廃棄物処理計画の中で検討しているのではないかと。

委員 災害が発生した場合には、災害廃棄物処理実行計画を策定する必要があり、その実行計画を策定するための手引きとある程度想定されることを盛り込んだ素案をあらかじめ作成することで、必要な内容を追記するだけで計画を完成させられるようにしたいのではないかと。

事務局 ご指摘の通りである。

委員 資料4の表4に対象とする災害廃棄物が示されているが、実際の被災時には被害の度合いは地域によって異なる。被害が少ない地域では通常のごみも発生するため、災害廃棄物との同時処理も考慮する必要がある。

中間処理後のごみの組成についても、区分を設けて整理すべきではないかと。中間処理後の残渣や破碎後の金属などを整理していけば、その他という形で示す区分も必要になると考える。

災害廃棄物の運搬は、通常一般廃棄物の収集運搬車両のみでは困難となるのではないかと。そのため、県や協会との災害発生時の連携について整理する必要がある。

委員 災害廃棄物処理計画に示されているように、収集運搬に関する協定は既に結ばれている。

また、対象とする災害廃棄物は優先して処理すべき廃棄物に関連付けて、どのごみを優先する必要があるのかを手引きの中で示したかったのではないかと。

事務局 今回策定する手引きでは、災害廃棄物処理計画で整理しきれていない実際に災害が発生した場合に、どのように対処するのかをあらかじめ検討することが目的である。具体的な検討は令和7年度に行うが、災害発生時のごみ処理施設の運用や収集運搬、外部との連携を整理していきたいと考えている。

委員 図6に災害廃棄物の処理フローが示されているが、災害廃棄物処理計画で既に検討されているのか。

事務局 災害廃棄物処理計画では詳細な流れを示していないので、手引きの中で仮置場の規模や運用、排出された災害廃棄物をどのように処理するのかを検討する。

委員 災害廃棄物処理フローは非常に重要なものであると、想定される廃棄物については全て検討し、災害発生後にその災害に応じた項目を選択するような形で整理すると考えてもよいかと。

また、あらかじめ様々な処分場や処理事業者を想定し、ヒアリングしたうえで、災害廃棄物処理フローを作成すべきと考える。

事務局 ご指摘された内容を目指している。災害の規模や状況に応じた処理体制を検討出来ればと考えている。関係する機関や団体と調整したうえで、具体的な内容を記載した手引きを作成することを想定している。

3 答申書（案）について

事務局より、「宗像市一般廃棄物処理基本計画」の改定について（答申書） 案」の説明。

委員 高齢者の支援制度のためのニーズ調査とは、どのようなことを考えているのか。

事務局 審議会の中でご指摘いただいた高齢者のごみ出し支援制度導入の手引きなどを踏まえて、今後新たな制度や拡充が必要なのか調査することを示している。

委員 生活排水に関することは記載する必要はないのか。

事務局 現状の答申書に付け加えて記載する。

委員 本編はごみに関する内容と生活排水に関する内容を分けて整理されているので、答申書も同様にまとめられると良いと考える。

また、本編の中では、「Ⅵ目標実現に向けた市民、事業者の取り組みの方向性」で示した表に行政の取り組みも示されていたが、答申書で省略されているのはなぜか。

事務局 「Ⅴ目標実現に向けた行政の取り組み」の中で詳細に示しているため、Ⅵの表の中では省略している。

委員 「Ⅳごみ減量の目標」の最終処分量について、「上記の目標」と記載されているが、これは何を指しているのか。

事務局 同じ項目内の「総排出量」、「1人1日あたりの家庭系ごみ（資源除く）排出量」、「リサイクル率」のことを指している。

委員 現状の表現で意味が伝わるか懸念している。

委員 最終処分量は国の目標でもあるため、目標として扱うことは適切であると考ええる。

事務局 伝わりやすいような表現とする。

委員 答申書の修正事項の確認は会長に一任していただいてもよいか。

全委員 了承。

4 今後の予定について

事務局より、令和7年度の審議会の予定についての説明。

事務局 令和7年度の審議会では、災害廃棄物処理実行計画の手引きについて、議論していただく予定である。詳細な日程については後日調整させていただく。

全委員 了承。

5 環境部長あいさつ

6 閉会

以 上